

平成 23 年度 第 2 回 十和田市事務事業評価 市民検討委員会 会議録

日 時 平成 23 年 10 月 24 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 30
場 所 十和田市役所 本館中 2 階 議会会議室
出席委員 伊藤伸彦委員 (委員長)、小林博子委員 (副委員長)、櫻田一雅委員、櫻田努委員、
築田明博委員、上野東星委員
事 務 局 (企画財政部) 西村部長、伊藤理事
横道課長 (政策企画室長)、工藤次長、中野渡主査
事業担当課 (農業政策課) 前山課長 (十和田産品販売戦略室長)、高淵次長
(商工労政課) 山辺課長、柴宮課長補佐
(都市整備建築課) 中野渡課長、野月課長補佐

1. 議 題

- (1) 評価の進め方について
- (2) 質疑及び評価
- (3) その他

2. 会議資料

- (1) 事務事業担当課からの追加資料
 - 農業政策課
 - ・とわだ産品販売チャレンジ助成金内容
 - ・農畜産物等総合販売推進事業費内訳
 - ・十和田市の野菜に関するアンケート調査結果
 - ・他課と重なっている事務事業
 - ・十和田市で採用しているマーカー一覧
 - 商工労政課
 - ・商店街関係事業実績 (補助関係)
 - ・情報誌、ガイドブック類一覧
 - 都市整備建築課
 - ・花壇コンクール参加者数の推移
 - ・花壇コンクール受賞者名簿 (平成 17 ~ 22 年度)
 - ・第 6 回十和田市花壇コンクール表彰式冊子
- (2) 論点整理表
- (3) 十和田市事務事業評価外部評価 (事前評価) 集計表
- (4) 十和田市事務事業評価外部評価表

3. 議 事

(1) 委員長あいさつ

(2) 評価の進め方について

評価の進め方について、事務局から説明。

- ・前回の第 1 回会議では、外部評価対象事業について担当課から概要説明を行ってもらい、委員から事前に提出していただいた御指摘をとりまとめた事前評価集計表をもとに、論点整理を行った。

- ・今回の第2回会議では、委員から依頼のあった質問事項について、担当から説明を行った後、前回の論点整理・事前評価集計表をベースに、対象事業について質疑・議論を行い、委員会としての評価を取りまとめる回。

(3) 質疑及び評価

担当課から追加資料の説明を行った後、委員と担当課による質疑を行った。その後、委員による外部評価表の記入を行い、その結果を取りまとめ、最も多かった意見を委員会の評価として決定した。

農畜産物等総合販売推進事業

【質疑】

- ・新規企業の誘致については、具体的な成果はあるか？
ここ数年は企業誘致の実績はない。
- ・6次産業の振興について、具体的なものはあるか。
組合や共同体を作っている法人において、野菜の作付けから加工販売を行うという動きが若干出てきている。
- ・市で支援しているところは。
四和地区に農業生産法人があり、今年から野菜を一次加工し、販売している。そのような施設に対して補助している。
- ・加工販売には、保健所の許可が必要となるのか。
然り。
- ・十和田市で採用しているマークの「十和田の黒だすけ」、「十和田逸品マーク」について、保健所の許可を得たものに、認定するということが。
然り。適法なものでなければ認定されない。
- ・マークの認定を行う委員会はあるか。
委員会形式で認定は行っていない。要領を定めており、基準に合致しているものであれば認定している。
- ・他課と重なっている事務事業について、もう少し詳細を聞きたい。
例えば
 - ・市として、軽トラ市へ行って手伝いはしていない。広告料の一部として負担金を出しているが、運営については協議会に任せている。
 - ・また、十和田産品販売戦略室は農畜産物等の販売促進や宣伝普及等の事務を担っているところ。一方で、観光商工部門も産業振興に関する事務を担っている。雇用創造で実施しているパンづくりについても、販売戦略室は出店への協力はしているが、運営部分是对応していない。窓口が、観光推進課か、販売戦略室か、明確でない部分がある。
- ・イベントのおおよその規模は把握されているか。
毎回、個人的に行って、写真を撮ったり、人出を見たり、出店の状況は確認している。
- ・十和田逸品マークについて、十和田の素材を100%使用する等といった規制はあるか。
十和田で作った食材を使っているものとし、そこまでの規制はしていない。
基準をあまり厳しくすると、広まらない可能性もある。
基準があった方が、消費者にとっての安心に繋がるかと思われる。

- ・とわだ産品販売チャレンジ助成金の助成を受けた事業者は、その後成果を出しているか。
イオンの出店の際に招待して、物を売って頂く等、連絡を取りながら確認している。
- ・とわだ産品販売チャレンジ助成金は、10～20万の範囲で均等に配分されていると思うが、その後成果がどのように上がっているか、追跡調査等情報収集は行っているか。
昨年度助成した業者、団体については、今年度も売り込みの協力依頼と、どのような販売となるか確認している。
- ・事業担当課の方で、このようなものが上手くいっているとか、もう少し重点的に予算を投入しても良いのではという議論はあるか。
以前取組んでいた方から、例え少額であっても取組みやすいという話は聞いている。事業規模については、ある程度幅を持たせながら検討していきたい。
ソフト事業を実施している団体が、ハード事業も実施し、大きく発展している事例も見られている。
- ・助成事業が市民に知られにくい状況にあると思われる。市民への浸透のさせ方に工夫が必要ではないか。例えば、新しい商品や加工品があるとすれば、市役所のロビーに集めて市民の目に触れるようにしたり、HP上で大きく取り上たりする等の仕掛けが必要ではないか。
- ・観光推進課、商工労政課との事務事業と重複している部分があるので、無駄を省いて効率的に統合しても良いのではないか。
- ・どちらかが主担当となり力を入れて進めることはできないか。
難しいものと思われる。
垣根を越えた組織体制が必要ではないか。
- ・十和田市は、イベントを沢山実施している。担当課長のコミュニケーションを図ることにより、参加が促せるのではないか。また、生産者が直接販売できるシステムもあると良いのではないか。生産者が直接販売することにより、安全で安心なものであることをPRできる上に、消費者も安心して購入できるものと思われる。
秋まつりや駒マラソンの機会を活用してPRしていくという手もあるのではないか。
- ・例えば、～室を部の下に置くのではなく、市長直属のプロジェクトチームとして位置付けされれば、今までの問題が解決されていく可能性もあるのではないか。

【評価結果】

事務事業の方向性

有効性を改善して継続し、さらに重点化を図る

商店街機能強化事業

【質 疑】

- ・情報誌の整理について、どのように考えているか。
発行する主体が、市以外のものが多い。各団体の活動に市が補助するというスキーム。各団体には思い入れもあり、目的も若干違う。また、市の財政状況も厳しい状況故、「ちょこっと」については、一般財源から補助しているものの、その他の雑誌については国からの補助も活用しつつ発行しているところ。

- ・「ちょこっと」の作成には、人件費は含んでいるか。
事業費は、印刷代及びエーгент作業代込みの金額を表示している。
- ・今回の担当課から提出のあった追加資料について。このように、情報誌一覧を作り、全体を把握できたことに意義があると思う。情報誌同士の整理統合をすることも大変そうだ。場合によっては、横断的に見るPTなどを作ってやる方法もあるのではないか。
- ・パンフレットはどこに置いてあるのか？
ものにもよるが、基本的に関係機関に振分けている。例えば、商工会議所、飲食店業協会等。
- ・役所の中でこれらのパンフレットが全て揃っているところはないのか。
市役所の観光推進課のフロアにはある程度のは揃っている。
- ・役所に出入りしない一般の人は、入手できないことが多くなるということか。
発行部数が限られているため、本当に必要とする方へ配布したいと考えている。
- ・パンフレットは全て無料か。
然り。
- ・市役所の一角に最新のパンフレットをサンプルとして全て揃えておくのも良いのではないか。そうすることで、目で見ても管理が可能となる。また、1部何百円かかったとか分かったとなお良い。
- ・花見の時期には、市役所新館の展望ロビーへ沢山の人が来る。他市町村からも来ている。そういう場所へパンフレットを置き、十和田市をPRする方法もある。
- ・ものによって、誰に渡して良いか少し違って来る。十和田へ来た人に、ホテル等で渡して貰った方が良いものもある。その辺りは勿論考えて配布しているのか。
然り。
- ・情報誌がどのように活用されているか、追跡調査を実施したことはあるか。
追跡調査は、「ちょこっと」や「まちぼん」に、プレゼント商品が当たる読者アンケートはがきを付けている。どこでこの本を知ったか、どの記事が面白かったか、どこに行ってみたくか等のアンケートを取り、現在事業者で昨年度の集計を行っている。自分で切手を貼る形にしているため、プレゼント商品が多いときには、返送数が多くなるが、豪華な賞品が無い場合は、返送数が少なくなるという現状もある。
また、補助事業であるため、事業者へそれらの資料を提出して頂くようお願いしている。
- ・必ず成果を掴めるように工夫するという条件を付す等、補助する側の指導があれば、出来上がるものが違って来るものと思われる。例えば、料金受取人払いのはがきを入れる等。作って配布して終わりではなく、成果が大事であると考えて頂きたい。
- ・北里大学では、毎年必ず学会を開いている。また、同窓会も実施しており、全国各地から出席者が集まるため、結構な部数の資料を発送している。そういう時の郵送資料に十和田のPR資料を加えてもらうなどしていただければ、波及効果は大きいのではないか。このように、県外から多くの人々が十和田に集まる会議や催し物の機会も活用して頂いて、PRしてみてもどうか。
- ・長野の蕎麦屋さんでお菓子を買ったときにアンケートが入っていた。応募したところ、プレゼント当選はしなかったが、お菓子を半額で購入できる案内が入っていた。そのような上手なやり方も取り入れてみてはどうか。

・ハロウィンのイベントで、商店街の人達の中でイベントを実施することを知らない人がいた。周知不足ではないかと思う。

広報や新聞の折込みでの周知は行っている。個店へ伺い協力を仰いでいるが、協力できないという個店も中にはある。どこまで周知範囲を広げるかという部分については課題となっている。商店街の長の方から聞くと、全ての個店に参加してほしいと要望はしているが、どうしても出てこない個店もあるとのこと。そこまでは強制できないという現実もある。

・イベントを実施したときは、それなりに人が集まるが、本来目的としている商店街の人達の満足度や成果については調査していないと思う。成果を評価しないまま補助し続けても良いものか。商店街の人や商店街に来た人の感想を聞く等、評価を行うのは市の仕事だと思う。

・若い人が関わり、盛り上がっているように感じられることもあり、そういった部分も伸ばせていけたらと思う。しかし、疲労感だけ残るといったことはないか。

現実問題として、十和田市のみならず、どこの商店街も高齢化しており、若い人達がバックアップや先頭を切って行うという商店街は中々見当たらなくなっている。伸びるところは、若い人が先頭を切って実施し、併せて人材育成も行っている。成果の評価は、お客さんに聞くことも然ることながら、最終的には商店街が、将来 5~10 年後に所得が伸びたという成果が表れればと考える。そのときに、5~10 年続けてきて良かったと思えるのではないか。

【評価結果】

事務事業の方向性

有効性を改善して継続

市民参加による緑化の推進（十和田市花壇コンクール）

【質 疑】

- ・論点について、前回、町内会連合会が実施している花いっぱい運動もあるので、そちらとの連携を模索してはどうかという意見を述べていたので、それを含めて頂きたい。
- ・花壇コンクールについては、長い間実施していることは実績で出ている。市民への啓発は十分に行き渡っているように思われるので、オープンガーデンのような新しい取組みに重きを置いた方が良いかと思う。費用対効果を考えると、無理をすることはしないのではないかと思う。
- ・以前は、効果があったと思う。時代とともに効果が薄れてきているように思われるので、そろそろ整理してみてもという感じは受ける。
- ・23 年度の表彰式では、参加者の声を聞く機会が無かった。前回の会議でも申し上げたが、色々な試行錯誤が、課の中でのみ一生懸命考えられているように感じられる。参加者の声や熱意や不満を吸い上げるプロセスが希薄であると思う。見直す機会ではあるが、止めるとまでは思わない。

花壇コンクールは、昭和 47、8 年頃に緑と花のまちづくり推進条例における緑化の推進ということで始まり、オープンガーデンは、実質的に 21、22 年度から行われている。

花壇は、花壇に花を列状に植えて、土が見える状態と定義している。そのほか、ポット、樽、バスケット、プランケット、また、アイリッシュガーデンのように、花を植えるのではなく、多年草、宿根草、球根等を植えて、花や葉も楽しむ等、庭作りが多様になってきている。

個人の部で優勝されている方はガーデニング、団体の部や街路の部は花壇となっている。花壇の審査は、花の勢いが良く、草が良く取られていて元気に育っている等が判断基準となり、ガーデニングは全体のバランスを見る。このようなことから、花壇コンクールの審査条件をそのまま当てはめ

ることができなくなっている。審査は、1年に1~2回しかできないことから、一番良い時期に審査できないこともある。ずっと同じ審査の仕方を行ってきた点が私たちの反省材料である。2年間だけご意見を聞いたという点については、オープンガーデンを始める際にご意見を聞いている。その中で、花壇コンクールが今の時代に合わなくなっているのではないかということを感じさせられた。オープンガーデンでは、順位を付けるのではなく、個性ある庭を様々な人に見て頂き、それを各々の花づくりの参考にして頂くという形で実施していきたいと考えている。

- ・日本の観光地にも、どうぞ入ってくださいという所もあり、意外にお客さんが多く歩いているという所もある。そのような形にしていきたいということか。
然り。
- ・今年度、緑と花のまちづくり推進市民懇談会を設置し、花壇コンクールや公共施設の花壇について市民から意見を取り入れる取組みを始めている。
- ・イルミネーションの審査は行っているか。
観光推進課で行っている。
- ・オープンガーデンのマップを作り広報に折込みすれば、花好きな人が渡り歩いて、良い雰囲気になっていくのではないか。
マップは、パソコンで作成し、課の前や、市役所1階の案内所で無料配布している。手作りのため費用が掛かる。このため、市ホームページへ参加者を掲載する等、パソコンを介して情報を提供していこうと考えている。また、リーフレットのようなものを作成したいと考えている。
- ・花いっぱい運動というのは、どこでどのように実施しているのか。
町内会連合会で農協へ約6万株の苗作りを委託し、5月末頃に約300の町内会へ配布している。町内会連合会の予算で行われている。
- ・緑と花のまちづくり推進市民懇談会において、町内会連合会との連携や、官庁街の整備等との整合性をとっていくということか。
然り。町内会に公共施設や道路等を飾って頂くことが一つのボランティアであり、市民との協働ということと理解し、拡大していきたいと考える。
- ・官庁街にいくつもブロックがあるが、例えば、そのブロックを貸し出すというようなスタイルを取る方法も考えられるのではないか。
担当課でもそうしたことが考えられないかということで、6月1日号の広報で募集したが、申込みは無かった。

【評価結果】

事務事業の方向性

事務事業の統廃合を図る

(4) その他

- ・次年度以降も同じような外部評価の実施を考えているか。
第1回会議での事務局説明でも申し上げたが、十和田市は事務事業評価について、昨年平成22年度に試行を行い、今年平成23年度から導入を開始した段階で、まだこの取組を始めたばかりである。今回の議論も踏まえた上で、次年度の実施のあり方について、対象事業の選定なども含めて検討して参りたい。

- ・外部評価の対象事業の一部を当委員会においても選定できればと思う。除々にそのような形で実施していくことにより、市民の目から見て、予断なく検討して貰っているという感じを受けるものと思われる。
- ・もう少し準備期間をとって、議論の内容を深められることが望ましい。
- ・行政改革推進懇談会を総務部で実施している。本来、行政改革が先行していて、懇談会でかなりの事ができるのではないかと考えている。しかし、懇談会では、どういう会議をしているかというのが見えてこない。位置付けが良く分からない。

少なくともリンクしている感じにはなっていない。その点において、権限もそれ程あるようで無い。実際に、それがリンクしていけば・・・また、必ずしも委員が一緒である必要もないと思う。(行政改革推進懇談会と事務事業評価 市民検討委員会)情報がお互いに共有されながら、順番にやっていくという方法が良いのかもしれない。
- ・他の市民も施政に対して興味を持って貰って、色んな視点から何らかの形で意見を出せるというような雰囲気が一番良い。

これ位中身のある会議は、多く方に見て頂きたい。

【事務局より】

非常に貴重なご意見を頂きましてありがとうございました。今後の予定につきましては、委員の皆様のご意見を報告書という形でまとめ、市長へ報告するとともに、報告書を委員の皆さまへお配りしたいと考えております。内容については、委員長と事務局にご一任頂ければと思います。

また、評価を受けました3事業につきましては、ご提言を踏まえまして、担当課としての対応方針を再検討し、庁議に諮り、事務事業の方向性を決定したいと考えております。

本日の会議結果や、報告書、対応方針につきましても、事務事業評価は透明性の確保ということが1つの趣旨となっておりますので、ホームページ等において公開し、しっかりと記録として残しておこうと考えております。評価全体につきましても厳しいご意見を頂きましたけれども、なるべく対応できるように頑張りたいと思っておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

以上